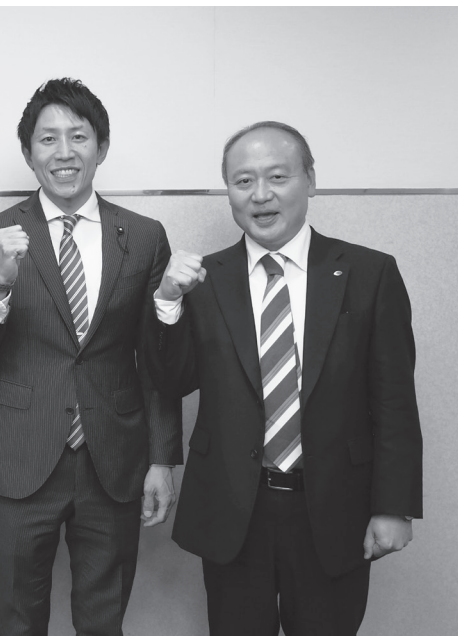
道魂は決して忘れない

公共交通の役割とコロナ禍での取り組み そして、JR西日本への期待

中央本部は、新春を迎えるにあたり、JR西労組出身の三日月大造滋賀県知事、柿本忠則広島県議会議員、梶原英樹京都府議会議員を迎え、上村中央執行委員長とともに座談会を行った。それぞれの立場でのコロナ禍の取り組みに加え、公共交通の役割やJR西日本への期待などについて議論が展開されるとともに、柿本、梶原両議員の今春に控える2期目挑戦に向けた決意を新たにする機会となった。（文中は敬称略）

初心を忘れず 日々の活動に邁進



―本日はお忙しい中、新春座談会にお集まりいただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

早速ですが、三日月知事は、昨年7月に3期目の当選を果たされました。また今年は、滋賀県政150周年の節目の年ですが、当選時の思いや決意をお聞かせください。

三日月　おかげさまで3期目を迎えました。530,460票という大きな票を頂きましたので、それを糧、力として琵琶湖を真ん中にコロナに負けず、「健康しが」を作る取り組みを進化させていきたいと思います。元気な知事、そして謙虚な知事でありたいのと、2023年は衆議院議員に当選してから丸20年の節目でもあるので、原点回帰、政治を志した時を思い起こしながら、初心を忘れず活動を行っていきたいと思います。

―柿本議員、梶原議員は県議会、府議会議員に当選されて4年目となりましたが、議員となってからの取り組みや、立候補時との心境の変化、議員生活で感じたことなどお聞かせください。

柿　本　自身が議員を志した時に感じていた議員像は、地域のイベントなどの挨拶には来るけど、どこか遠い存在であり、何をしているのかがわからない人というものでした。そのため、身近な議員になることを公約に掲げ、現在も、地域の方々に近い存在であると思ってもらえるよう、初心を忘れることなく活動を行っています。おかげさまで、地域の方々からは応援の温かい声を頂けています。

議員は大きな政策を進めなければならない一方、困っている方々の声を拾い、行政に届け働きかけることも大きな仕事です。

議員になって感じたことは、県の予算があっても、県独自で使えるのはそのうち約10%に過ぎず、国から定められた義務的経費が大半を占めています。また、その残りの1割を活用するにも、国からの助成金や交付金がないとできない施策も多く、非常に厳しい自治体財政であることを痛感しました。

広島県議会議員
柿本忠則氏

梶　原　議員になって、3年6ヵ月が経ちました。議員を志している時に、前々回の三日月知事の選挙をお手伝いさせていただきました。その際に、知事が「地域の方々の身近な存在になりたい」と仰っていたことに共感し、三日月先輩のようになりたいと感じました。

そして今日まで、「梶原に言えばやってくれる」「梶原となら言葉のキャッチボールができる」と言っていただけるようになることを心掛けてきました。現在もその時の想いを忘れないよう、主に自転車での街宣活動を行なっており、京都府庁にも自転車にのぼりを立てて通うこともあります。

また、地元である山科を盛り上げたいという思いは強く、これまでは山科を通る上下5本の「特急はるか」のうち1本しか山科駅に停車しませんでしたが、2021年3月のダイヤ改正で5本すべて停車することになり、その際の記念式典も地元と協力して成功させることができました。地元の方も大変喜んでくれています。

引き続き、とにかく身近に感じていただき、地域の方々の生活が少しでも良くなるよう、地域の皆さんと一緒に歩んでいきたいと考えています。

地方議会での活躍によって 地方政治が身近な存在に

JR西労組中央執行委員長
上村良成氏

―上村委員長、この間のお三方の活躍についてどう思われますか。

上　村　3名の活躍によって、西労組としても、地方議会、地方政治が身近になりました。日常生活には地方政治が深く関わっているにもかかわらず、これまでも組織内議員はいたものの、正直なところ、国政と比べ、地方議会に目を向ける機会はあまり多くありませんでした。現職のJR西労組組合員が県政、府政にチャレンジした意義、価値は非常に大きく、選挙活動を含め、地方政治に親近感を覚え、組織内議員を抱える地方本部では、議会傍聴にも頻繁に行くようになりました。

また、組織ニュースなどで議会での発言内容や傍聴行動の様子などを掲載することで、組合員が地方政治に触れる機会も増えました。そして、最近では、地方ローカル線の今後のあり方などについて議論が始まっていますので、組織内議員、とりわけJR西労組出身議員の役割はこれまで以上に重要になると考えています。

―今、委員長が一部触れられたように、JR西労組は、コロナ禍での課題や地方ローカル線問題をはじめとする政策課題に取り組んできました。三日月知事は3期目の公約に「新しい公共交通利用」を掲げられていますが、JR西労組、JR西日本との関わりも含め、その考えをお聞かせください。

三日月　まず、公共交通は、私たちの暮らしに欠かせないものであり、人生を豊かにする、町を元気にする、生活の質を左右する重要な役割を果たしています。

しかし、存続・維持については事業者任せになっているのが現状であり、公共交通は誰もがあったら良いなとは思うけれど、良くするための努力が十分行われておらず、事業者の苦労や仕組みが理解されにくいため、滋賀県では、公共交通がこうなれば良いなというビジョン作りに着手しています。

そして、そのビジョンを実現するためには、財源が必要です。もちろん国の補助金も利用しますし、事業者と利用者の負担も必要ですが、もう一つ、私たち県民が少しずつ等しく分担する、例えば、「交通税」を導入すれば、どういう交通が実現できるのかという夢を描いていきたいと思っています。

―「交通税」について、興味深いお話だと思いますが。

上　村　コロナ禍に入り、改めて、感染者が増えて利用が全くなくなっても、エッセンシャルワーカーを運ぶために、列車運行を止めることはありませんでした。鉄道は、国民生活を守るために何があっても動かさなければならないという大きな使命・役割を担っていることを改めて実感したところです。

一方で、新幹線などの黒字で赤字路線をカバーする、いわゆる内部補助が通用しなくなる中、地方公共交通のあり方を議論するきっかけにもなりましたが、初めてJR西日本が線区別収支（輸送密度2千人未満）を発表しました。

滋賀県の「交通税」の議論は、新型コロナウイルス感染症拡大とは関係なく行われてきた経過があると伺っていますが、地域の方々が公共交通に関心を持って頂けるきっかけになると思いますし、滋賀県が地域のことは地域で主体的に考えようという問題提起をしていただいたことは、コロナ禍で苦しむ事業者、労働組合として心強く思っており、今後の建設的な議論に繋がっていくと確信しています。

↖

23年 春 談会

滋賀県知事　三日月大造氏　JR西労組
広島県議会議員　柿本　忠則氏　中央執行委員長

柿本忠則（かきもとただのり）氏 プロフィール

■1982年3月23日生　広島県尾道市出身
尾道市立山波小学校、久保中学校、私立如水館高等学校卒業
■2000年4月　JR西日本入社
駅、車掌、新幹線運転士等を経験後、総務・人事部門で勤務
■2008年　JR西労組 広島地本 青年女性委員長
■2010年　JR西労組 中央本部 青年女性副委員長
■2015年　JR西労組 広島地本 副執行委員長
■2019年4月 広島県議会議員選挙（東区）にて初当選
趣味はバスケットボール、買い物、読書